

其 位 素 行 （そいそこう）

どのような分野においても、日々の弛まぬ研鑽は知らず知らずのうちにヒトの感性を磨きあげて心眼を開かせ、心耳を澄まさせる。強い意志を必要とし克己心を養うなど、どこか「修行」にも似ている。大学病院の要職に長いこと従事をしていれば仕事は教室内には留まらず、医学会や病院運営にも広く及び、心身を磨り減らして言葉には言い尽くせぬ苦勞が沢山あったのであろうと推察申し上げます。

この度、草野先生が自治医大副病院長、腎臓内科学教室の主任教授を無事に勤めあげ、晴れて定年を迎えられましたこと誠におめでとう御座います。旧友として心よりお祝いを申し上げます。草野君と私は東北大学医学部の同期生で足掛け45年の付き合いです。レジデントの頃は共に眼と鼻の先の自治医大敷地内の蒲鉾住宅に住み、彼は腎内、私は消内に在籍しました。彼は医学生の頃から還暦を迎えた今日までトレードマークである微笑を湛えた表情は現在も何一つ変わっていません、まさに仏教でいう「無財の七施」の一つ、和顔施（いつも和やかな顔つきで人に接する、布施の一つ）そのものです。如何なる場面においても冷静沈着な眼差しで柔軟な対応を心懸ける姿勢、何事もなかったように生き抜いてきた温厚な人柄には日頃より敬意を払っています。

私が小金井中央病院を国分寺町に開設した平成元年は、草野君は確か助教授の時代かと思いますが、多忙の時間を割いて、開院以来、24年間、毎月2度、土曜日午前の外来を手伝いにきてくれました。途中、腎臓内科教室の初代教授浅野泰先生のご高配により古谷裕章医師（現在、小金井中央病院副院長）をご紹介いただき入院施設のある人工透析施設が当院にも開設されました。土曜日午後からは医局で草野君と小生の二者談義が恒例化して親交を深めあったことは何物にも代え難い、生涯忘れ得ない貴重な財産になりました。議論が白熱し昼食を摂るのを忘れて日暮れになることも稀ではありませんでした。草野君はかなりの読書家で起業家、経営コンサルタント、UCLA教授の肩書きの大前研一氏の著書はすべて読破し心酔している時期もあり、医大教授には珍しく世情にも敏感でした。平成の経済不況、国家財政の逼迫、医療行政の貧困、病院経営の困難性などをよく憂っていました。大学病院の幹部らしく医学生や研修医に対する医学教育問題や慢性的医師不足による若手医師の過重労働問題が話題に及ぶこともありました。いずれにしても話題に事欠くことはありませんでした。彼はやがて主任教授に昇任し、私は県医師会役員に就任し共に多忙となり懇談する時間も自ずから制限されるようになりました。

この定期懇談を通してヒトの心の在り方に対する二人の共通認識が徐々に醸成され24年余も続けられたのだと思います。この共通認識を自分なりに理解して要約させてもらえば、「与えられた環境の中で不平不満を言わず最善の努力をする、それ以外のことは考えない」、「自分に降り懸かる社会現象や自分の人生は全て自己の責任の結果であり、決して他人のせいではない」とする生き様への共感であろうと思います。べたつかず、眼を離さずの不即不離の関係で互いに刺激を与えあい、この栃木の地で生き抜いてこられたのも幸運であったと感謝しています。草野君は私にとって無二の親友というニュアンスよりは戦友といった表現の方がしっくりします。この天与の縁（えにし）を深謝しています。

草野君の健康に対する意識は医師の中でも秀でています。「私は95歳まで生きる」、「断食は良い」など、私は耳にタコができるほど聞かされました。持ち前の強い意志力で毎朝、身体の隅々の細胞にまで言い聞かせて実践していることでしょう。95歳までには30年以上あり余生と言うには長すぎますが、草野先生の第二の人生に幸多かれとお祈りを申し上げまして祝辞とさせていただきます。

医療法人小金井中央病院（栃木県）

理事長 田中昌宏